

事業所名	グループホーム 赤い屋根の家 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成20年12月 1日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 理学療法士 資格・経験 障害児施設勤務(20年)、理学療法士、介護支援専門員、が「ヘルパー」講師 B:現職 医療施設勤務 資格・経験 ヘルパー2級、介護医療型施設(6年)
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述) <ul style="list-style-type: none"> ・山陽自動車道笠岡インターチェンジからすぐの住宅地の中にホームはある。ホームの前には、緩やかな坂の並木道があり、ホームの赤い屋根が木の緑に映え、印象的である。四方を山に囲まれた静かな環境で、病院や市役所等にもほど近く、生活にも便利な場所である。玄関の壁には、趣きのある字で書かれた『笑顔』の文字が飾られている。 ・ホーム入口のドアを開けるとすぐに台所があり、料理の美味しそうな匂いがホーム全体に広がっている。ホームで出される食事やおやつ、行事の時の食事も全て職員の手作りで、美味しく心のこもった食事は、入居者・家族共に好評である。入居者の思いを受け止め、「納得のいく介護をしたい」という職員一人ひとりのぬくもりが伝わるホームの中で、入居者は自分のお気に入りの場所での暮らしを今を生きている。 ・デイサービスの事業所も同じ建物の中にあり、入居者・職員がデイサービスに出向き、デイサービスの利用者の方と合同で度々訪れる地域のボランティアの催しを楽しんでいる。職員間の連携をしっかりと取ながら、入居者の活動の機会を支援している。 ・地域の元気な高齢者の集いの場として、「自立デイ」を毎月1回、ボランティアで行っている。送迎から食事の提供、レクリエーションやお花見等、入居者と一緒に楽しい一日を過ごしてもらっている。また、認知症対応型通所介護(3名)の受け入れも行っている。 ・住み慣れたホームで人生の最期を迎えたいという本人・家族の希望により、開設当初から、看取りを行ってきた。今後も、協力医療機関との連携を取ながら、本人・家族の希望に応え、受け入れていく方針である。
特に改善の余地があるとと思われる点(記述)
特になし。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・『1. みんな一緒にの楽しい笑顔 1. ゆっくりのんびり出来る事は自分らしく頑張ろう』の理念の通り、入居者・職員みんなが一緒に生き活きと過ごせる場をめざしている。入居者と向き合う職員の姿勢を一つにして、入居者が出来る事・したい事をしながら安心して快適に暮らせるように工夫や努力をしている。 ・入居者一人ひとりを尊い、家族的な雰囲気の中で一人ひとりが自分らしく居ることを大切に、「ここで暮らして良かった」と思ってもらえるホームをめざしている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が暮ら着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの個性やペースに合わせた支援を心がけ、コミュニケーションを大切にしている。うれしい時も悲しい時も、一緒に喜んだり悲しみ、入居者が遠慮なく思いを伝えたり、感情表現ができるように支援している。 ・職員は、入居者が居たい場所ですしたい事をして自由に過ごす姿を温かく見守っている。一人離れて居る方や希望の表出の少ない方には、顔を見ながら声や手に触れ、優しく問いかけたり持てる能力を発揮出来るように働きかけ、不安や孤独を感じずに過ごせるように働きかけている。 ・入居者の言動の否定や説得、強要等をするのではなく、自然な形で本人が納得出来る工夫をしている。夕刻になり帰宅願望が現われた方がおられたが、その方の話を穏やかに聞き、ホーム入口の職員手書きの時刻表を見てもらっていた。その方は、「もうバスがないなあ。今夜は泊めてもらうから頼みます。」と食卓に戻られていた。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティアの催しやレクリエーションを通して身体を動かしたり歌ったりして機能の維持を図ると共に、趣味や家事作業等、好きな事・したい事を職員も一緒に楽しんでながら経験や記憶に働きかけている。家事作業を終えた時には、「ありがとう」の言葉かけをしている。 ・建物の構造上、洗面所とトイレが併設されている箇所があるが、カーテンで間仕切りをし、入口ドアには札を下げ使用中と分かるように工夫して入居者のプライバシーを守っている。 ・重要書類はすべて事務室で管理し、個人の情報を他に洩らさないように留意している。ホームの便りに写真を載せる場合は、家族の了解を得てから掲載している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画を立て、保健所主催の研修や他事業所での実技研修等への参加と、系列事業所との合同会議で事例検討を行い、テーマを決めて勉強会を行う等、職員は外部内部の研修に熱心に参加して情報の共有に努めている。また、感染マニュアル・生ごみマニュアル等の各マニュアルがきちんと整備され職員間の周知徹底がなされており、サービスの質の向上に全職員で取り組んでいる様子がうかがえる。 ・避難訓練は、入居者を交えて年3回実施し、昼間と夜間を想定して避難経路や手順の確認を行っている。また、管理日誌には、火元点検者の名前と時間を毎日記入する事になっている。運営推進会議でも、災害時の地域の協力が確認されており、災害対策に努力している。 		